

令和3年度 球美中学校各教科シラバス

教科名	中学1年 家庭科
教科担当	中村 志穂
教科書名	新しい技術・家庭 家庭分野（東京書籍）
副教材名	沖縄県版 技術・家庭学習ノート 家庭分野 パート1

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒（本校教育目標：知の側面）をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中学生のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。

球美中学校の各教科担当（教科の先生）は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の目標 → 目標を達成するための授業・活動 → 今日の目標が達成できたかのまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動（思考・判断・表現等）」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力（＝学びに向かう力）」を育成することにつながります。

教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 家庭科の学習について

学習のねらい	(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
授業のすすめ方	(1) はじめの活動・・・話し合ったり、調べたりして、今までの生活を振り返る。 (2) 展開・・・教科書、ワーク、ワークシートを使用し、授業を行う。 ペア活動やグループ活動に取り組み、意見交流の時間を設ける。 (3) まとめの活動・・・自己評価シートを記入し、学習の振り返りを行う。
学習上の留意点	(1) 先生の指示や友達の発表をしっかり聞く。 (2) 間違いを恐れずに、積極的に自分の考えなどを話すこと。 (3) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。 (4) 事故の防止に留意して、用具や機械類を扱うこと。 (5) 実習に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取り扱いに注意し、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

2 評価について

評価方法	□評価の観点とは、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度の三観点で評価します。 □「知識・技能」は、定期テストや実技テスト、作品を評価します。 □「思考・判断・表現」は、レポートや実習等の実践計画書、グループでの話し合いや発表、学習活動の記録をまとめたシートを評価します。 □「主体的に学習に取り組む態度」は、ノートの記述や授業中の発言、自己評価シートの内容を評価します。 ※定期テストの点数だけでは評価は決まりません。提出物や日々の授業を大切にしましょう。
定期テスト	□単元テストと定期テストを行います。 □単元テストと定期テストの範囲は、授業で扱った事項および試験前に指定した範囲から出題します。 1週間前までには提示します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
4 月	1編 1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴 ①どうして食事をするのだろう ②私たちの食生活 ③栄養素ってなんだろう ④中学生に必要な栄養素	教科書、ワーク、ファイル
5 月	1編 2章 中学生に必要な栄養を満たす食事 ①食品に含まれる栄養素 ②何をどのくらい食べればよいか ③バランスの良い献立作り	
6 月	1編 3章 調理のための食品の選択と購入 ①食品の選択と購入 ②生鮮食品の特徴 ③加工食品の特徴 ④食品の保存と食中毒の防止	
7 月 8 月 9 月	1編 4章 日常食の調理と地域の食文化 ①日常食の調理 ②野菜・いもの調理 ③肉の調理 ④魚の調理 ⑤日本の食文化と和食の調理 ⑥持続可能な食生活を目指して ⑦生活の課題と実践	
	※9月24日（金） 技能教科テスト（前期）	

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る1分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。（無言挙手）
- ・授業で何を学習するかを確認し、目的意識を持って臨みましょう。
- ・わかったことや自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・わからないことを教えあったり、みんなの意見を聞いて考えを深めたりするなど、友達と協力して学習に取り組みましょう。
- ・ノートやプリントは、工夫してまとめましょう。
- ・学習課題をじっくりと考え、課題を解決できたことに自身を持ちましょう。
- ・提出物は提出期限を守りましょう。
- ・実習等では、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動しましょう。

5 家庭学習のアドバイス

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活を振り返る機会とし、よりよくする手立てを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。

令和3年度 球美中学校家庭科シラバス

教科名	中学2年 家庭科
教科担当	中村 志穂
教科書名	新しい技術・家庭 家庭分野（東京書籍）
副教材名	沖縄県版 技術・家庭学習ノート 家庭分野 パート1・2

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒（本校教育目標：知の側面）をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中学生のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。

球美中学校の各教科担当（教科の先生）は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の目標 → 目標を達成するための授業・活動 → 今日の目標が達成できたかのまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動（思考・判断・表現等）」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力（＝学びに向かう力）」を育成することにつながります。

教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 家庭科の学習について

学習のねらい	(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
授業のすすめ方	(1) はじめの活動・・・話し合ったり、調べたりして、今までの生活を振り返る。 (2) 展開・・・教科書、ワーク、ワークシートを使用し、授業を行う。 ペア活動やグループ活動に取り組み、意見交流の時間を設ける。 (3) まとめの活動・・・自己評価シートを記入し、学習の振り返りを行う。
学習上の留意点	(1) 先生の指示や友達の発表をしっかり聞く。 (2) 間違いを恐れずに、積極的に自分の考えなどを話すこと。 (3) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。 (4) 事故の防止に留意して、用具や機械類を扱うこと。 (5) 実習に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取り扱いに注意し、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

2 評価について

評価方法	□評価の観点とは、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度の三観点で評価します。 □「知識・技能」は、定期テストや実技テスト、作品を評価します。 □「思考・判断・表現」は、レポートや実習等の実践計画書、グループでの話し合いや発表、学習活動の記録をまとめたシートを評価します。 □「主体的に学習に取り組む態度」は、ノートの記述や授業中の発言、自己評価シートの内容を評価します。 ※定期テストの点数だけでは評価は決まりません。提出物や日々の授業を大切にしましょう。
定期テスト	□単元テストと定期テストを行います。 □単元テストと定期テストの範囲は、授業で扱った事項および試験前に指定した範囲から出題します。 1週間前までには提示します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
10月	2編 1章 衣類の選択と手入れ ①どうして衣服を着るのだろう ②私らしさと T. P. O ～着方の工夫～ ③日本の衣文化 ④衣服計画と必要な衣服の選択 ⑤衣服の手入れ	教科書、ワーク、ファイル
11月	3編 1章 住まいの役割と安全な住まい方 ①もしも住まいがなかったら ②住まいと気候風土の関わり ③健康で快適な室内環境 ④家族の住まいを安全・安心に ⑤災害への対策	
12月	5編 1章 家族家庭と地域 ①私たちの生活と家族・家庭の機能 ②中学生としての自立 ③家庭生活と地域との関わり	
1月	5編 2章 幼児の生活と家族 ①幼い頃の振り返り ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の一日の生活 ⑤支えられて身につける生活習慣 ⑥幼児の生活と遊び ⑦幼児との関わり方の工夫 ⑧幼児との関わりを生活に生かす ⑨子どもにとっての家族	
2月	5編 3章 これからの家族と地域 ①家族との関わり ②家族や地域の高齢者との関わり ③地域での協働を目指して	
3月	2編 2章 生活を豊かにするために ①作って楽しい布作品 ②持続可能な衣生活を目指して	

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る1分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。(無言挙手)
- ・授業で何を学習するかを確認し、目的意識を持って臨みましょう。
- ・わかったことや自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・わからないことを教えあったり、みんなの意見を聞いて考えを深めたりするなど、友達と協力して学習に取り組みましょう。
- ・ノートやプリントは、工夫してまとめましょう。
- ・学習課題をじっくりと考え、課題を解決できたことに自身を持ちましょう。
- ・提出物は提出期限を守りましょう。
- ・実習等では、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動しましょう。

5 家庭学習のアドバイス

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活を振り返る機会とし、よりよくする手立てを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。

令和3年度 球美中学校家庭科シラバス

教科名	中学3年 家庭科
教科担当	中村 志穂
教科書名	新しい技術・家庭 家庭分野（東京書籍）
副教材名	沖縄県版 技術・家庭学習ノート 家庭分野 パート2

はじめに：これから始まる学習に積極的に意欲を持ち、主体的に学ぶ生徒（本校教育目標：知の側面）をめざし、教科ガイダンスを実施します。この1年間の学習について教科シラバスを示して説明します。

予測が困難と言われるこれからの社会で、球美中学生のみなさんが、①生きていくため、②あこがれの職業につくため、③夢を実現するためには、中学校の各教科の授業の中で身につける「主体的に学ぶ力」が、みなさんの将来に大きな力となって役立ちます。

球美中学校の各教科担当（教科の先生）は、みなさんに、「主体的に学ぶ力」が身に付くよう、「今日の目標 → 目標を達成するための授業・活動 → 今日の目標が達成できたかのまとめ・振り返り」による「わかる授業」を学校全体で実践します。

生徒の皆さんは、各教科の授業における「学び」は実生活とつながっているということを実感し、各教科が示す「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得」ができるよう努力してください。さらに、「各教科で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を活用する活動（思考・判断・表現等）」に積極的に取り組んで下さい。この地道な努力が、「主体的に学ぶ力（＝学びに向かう力）」を育成することにつながります。

教科の学びの習得は、あなたの夢をひろげます。ともに頑張りましょう!!

1 家庭科の学習について

学習のねらい	(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
授業のすすめ方	(1) はじめの活動・・・話し合ったり、調べたりして、今までの生活を振り返る。 (2) 展開・・・教科書、ワーク、ワークシートを使用し、授業を行う。 ペア活動やグループ活動に取り組み、意見交流の時間を設ける。 (3) まとめの活動・・・自己評価シートを記入し、学習の振り返りを行う。
学習上の留意点	(1) 先生の指示や友達の発表をしっかりと聞く。 (2) 間違いを恐れずに、積極的に自分の考えなどを話すこと。 (3) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。 (4) 事故の防止に留意して、用具や機械類を扱うこと。 (5) 実習に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取り扱いに注意し、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動すること。

2 評価について

評価方法	□評価の観点とは、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度の三観点で評価します。 □「知識・技能」は、定期テストや実技テスト、作品を評価します。 □「思考・判断・表現」は、レポートや実習等の実践計画書、グループでの話し合いや発表、学習活動の記録をまとめたシートを評価します。 □「主体的に学習に取り組む態度」は、ノートの記述や授業中の発言、自己評価シートの内容を評価します。 ※定期テストの点数だけでは評価は決まりません。提出物や日々の授業を大切にしましょう。
定期テスト	□単元テストと定期テストを行います。 □単元テストと定期テストの範囲は、授業で扱った事項および試験前に指定した範囲から出題します。 1週間前までには提示します。

3 年間指導計画

月	主な学習内容および項目	教材・教具等
10月 11月 12月	4編 1章 私たちの消費生活 ①消費者としての自覚 ②購入方法と支払い方法 ③バランス良く計画的な金銭の管理 ④消費者トラブルとその対策 ⑤何を考えて決めますか～意思決定のプロセス～	教科書、ワーク、ファイル
1月	4編 2章 責任ある消費者になるために ①消費者としてできること～権利と責任～ ②省エネルギーと持続可能な社会 ③持続可能な消費生活を目指して	
2月	2編 2章 生活を豊かにするために ①作って楽しい布作品	

4 授業をうける心構え

- ・チャイムが鳴る1分前には授業の準備をして着席し、立腰・黙想を行います。
- ・質問があるときや問いに答えるときは、黙って右手を真っ直ぐ挙げます。(無言挙手)
- ・授業で何を学習するかを確認し、目的意識を持って臨みましょう。
- ・わかったことや自分の考えを積極的に発表しましょう。
- ・わからないことを教えあったり、みんなの意見を聞いて考えを深めたりするなど、友達と協力して学習に取り組みましょう。
- ・ノートやプリントは、工夫してまとめましょう。
- ・学習課題をじっくりと考え、課題を解決できたことに自身を持ちましょう。
- ・提出物は提出期限を守りましょう。
- ・実習等では、事故防止や衛生管理を含めた「安全」を第一に考えて行動しましょう。

5 家庭学習のアドバイス

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活を振り返る機会とし、よりよくする手立てを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。